

2025年度 第1回環境映画上映会

To Which We Belong

君の根は。

大地再生にいとむ人びと



話題のリジェネラティブ・ムービー、日本上陸

「リジェネラティブ(大地再生)」という世界観と出会い、農業・漁業・牧畜を、そして生き方そのものを転換した人びとに迫るドキュメンタリー映画

(2021年、アメリカ、89分、日本語字幕)

2025

7/9(水)

15:00~

会 場：桃山学院大学和泉キャンパス

2号館 3階 2-301教室

参加費：無料

どなた様もお気軽にご参加いただける上映会です

お申込みはこちら

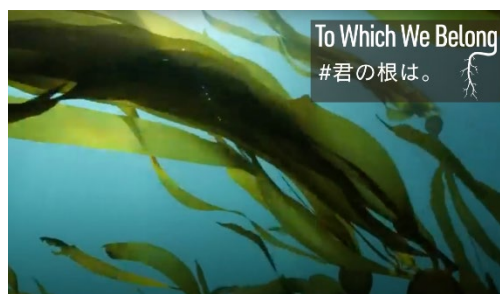


申込期日：7月3日(木)



私たちがつくり彼らが食べるものは全て土が基本です。消費者もこの運動に参加しているんです。

ミーガン・ラナン (バーニー・クリーク牧場)



気候危機の今、こうした環境海洋農業はとても重要です。なぜなら、作物(海藻)が膨大な量の炭素と窒素を吸収してくれるから。まるで海のセコイアです。

ブレン・スミス (NPO「グリーン・ウェーブ」)



マラの遊牧民たちが学んでいるのは単に家畜や牧場や気候変動のことではない。自分の土地の健康をどう取り戻すかです。

ムサ・キセール (マラ・トレーニング・センター)



アメリカで、メキシコで、アフリカで…、「リジェネラティブ（大地再生）」という世界観と出会い、農業・漁業・牧畜を、そして生き方そのものを転換した人びとに迫るドキュメンタリー映画の日本語版ができました。お近くの上映会にぜひご参加ください。

▶ハッシュタグ「# 君の根は。」 <https://www.yukkurido.com/towhichwebelong>



映画公式 HP はこちら

未来を探している人、必見です。

大地再生にこそ、今突き当たっている地球の温暖化、気候変動への解決策があると。そのためには農業を変えなくてはならない！強烈なメッセージです。

加藤登紀子（歌手）

食えること、装うこと、生活のあらゆる行いのルーツには大地がある。

手足を動かして実践していきたくなる
エネルギーを受け取りました！

鎌田安里紗（エシカルファッションプランナー）

人間がこの無限の生き物たちの万物の営みの中でどこでどういう面白い役割が出せるか。

この映画を足場にやりたいことが
いっぱい見えてきた！

アーサー・ビナード（詩人・アクティビスト）

畜産の在り方こそが大地再生に役立つ。

危機にある時代の転換を自然との共生によって創造する人たちの姿に、未来への希望が見えてくる。

山本伸司（パルシステム生協連合会顧問）

リジェネラティブな農業を通して取り戻す生命とエレメンツの調和が、いかに人間社会を精神的・肉体的・経済的に健やかにしてくれるか。

子どもからおばあちゃんまで
色んな仲間と何度も観たいです。

NOMA（モデル／エコロジスト）

これは単に農民の運動ではない。

地方に住む人も、都会に住む人も、山に住む人も海辺に住む人も、誰もがみな、人間観、自然観、世界観の転換を迫られている。あなた自身が当事者なのだ。

辻 信一（環境アクティビスト、文化人類学者）

＼農民も！／



自然を助ければ、自然が私たちを助ける。

アレハンドロ・カリージョ（メキシコ、ラス・ダマス牧場）

＼企業も！／



農民たちをサポートして土の再生を促すことは、社会の再生にもつながります。

キース・バーンズ（アメリカ、グリーン・カバー・シード社）

＼研究者も！／



自然に寄り添い、土壌を回復し、生態系のサイクルにバランスを取り戻す。解決策は私たちの足元にあるのです。

ジュディス・シュワルツ（『牛は地球を救う』著者）

＼リジェネラティブな漁業で
気候変動を解決しよう！／

